

令和6年度 地域おこし協力隊実績報告書

地域おこし協力隊 小川 航輝



(1) 活動概要

北海道森町は森林面積が総面積の76%を占めており、森林に恵まれ豊富な資源を保有している。一方でその活用方法については課題があり、伐期を迎えてなお放置されている木々が多い。また道南スギはその流通先のほとんどが本州であり、北海道内での流通が少ないのが現状である。この課題に対し、地域おこし協力隊として木材の利用関心向上のための木育、またものづくりを通して木の魅力向上や若手の人材育成を行うための若年層担い手育成施設の運用、そして地域材PRのための新製品の開発に尽力する。

(2) 実施した活動

◎若年層担い手育成施設の運用

- ・森高等学校にて木育の実施(全17回)
- ・さわら小学校にて木育の実施(全3回)
- ・鷲ノ木小学校にて木育の実施(全4回)
- ・砂原中学校にて木育の実施(全2回)
- ・こひつじ保育園にて木育の実施
- ・さわら幼稚園にて木育の実施
- ・施設内工具壁掛け収納を製作
- ・スターバックス函館エリアマネージャーの社内研修木育を主催
- ・町内小学生を対象にクリスマスワークショップを主催
- ・道南スギカヌーづくりワークショップを主催

◎特産品開発の進捗状況

- ・砂原支所の窓口カウンターを道南スギにてリニューアル
- ・道南スギカヌーを製作(2艘)
- ・来年度事業予定の地域材洋酒樽製作用の治具を製作

◎イベント開催等の記録

- ・道南スギカヌーづくり体験会の主催
- ・道南スギカヌー乗船体験会の主催
- ・三業まつりへの出展
- ・もりっこまつりへの出展
- ・木育フェスタへの出展

◎情報発信の効果

- ・北海道新聞に掲載(全2回)、函館新聞に掲載(全2回)
- ・Domingo にローカルプレイヤーとして登録

<https://domingo.ne.jp/player/detail/52>

- ・instagram フォロワー 800 人から 1000 人に増加

https://www.instagram.com/mori_no_francois/

- ・地域おこし協力隊 NEWS を月一で刊行(2024 年 12 月～、全 3 回)

<https://morimachi-iromori.studio.site/news-4>

(3) 成果と課題

◎若年層担い手育成施設

出張木育活動として森町内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校で全 28 回の木育を企画、準備、実施した。また、初めて施設内でのワークショップを主催し、9 名の町内小学生に参加した。場所の利便性から、出張イベントの開催に留まっていた点をバスの送迎を利用することで解決を図った。今年度は一回の開催に留まってしまったが、次年度は四半期に一回のイベント開催を目標とする。



砂原中学校にて支所のベンチを製作



道南スギを使ったランタンを製作

◎道南スギカヌー

若年層担い手育成施設にて製作体験会、町営プールにて試乗体験会をそれぞれ行い、参加者に魅力を発信することができた。短期間での製作プロセスの確立ができておらず、今年度はあらかじめ製作をしていたカヌーに乗船いただいたが、来年度は製作会で完成したカヌーに乗船できる仕組みをつくることで、さらなる満足度の向上に努める。また全長の短いカヌーの設計をすることで、制作期間の短縮や材料の歩留まりを向上させることでコストの削減にも努める。



秋田氏とカヌー製作体験会を実施



町営プールにてカヌー試乗体験会を実施

◎地域材洋酒樽

ナラ枯れ対策につながるよう地域ナラ材を利用した洋酒樽の試作を開始した。今年度は材料の確保、製材、そして樽製作に必要な治具の製作に留まってしまったが、次年度は50Lの洋樽試作を重ねていく予定である。製造技術を確立することで町内の雇用を生む産業の一つとなるように努める。



北広島市の工房にて製作過程視察



森町にて樽用の材料を選定

◎森町地域おこし協力隊 NEWS

地域おこし協力隊の活動が見えないという課題に対して、月一での活動誌の刊行を開始した。刊行した活動誌については、若年層担い手育成施設のホームページおよび自身の facebook、岡嶋町長の facebook にて発信をしているが、まだ周知には至っていないので引き続き刊行とともに周知方法について模索する。

(4) 次年度への提案

◎活動の継続または変更点

- ・道南スギカヌーの製作から乗船までをセットとしたイベントの主催
- ・地域材洋酒樽の試作
- ・空き家を利活用した民泊の実施
- ・若年層担い手育成施設の運用(継続)
- ・町内教育機関にて木育の実施(継続)
- ・砂原支所の窓口カウンターを道南スギにてリニューアル(継続)
- ・森町地域おこし協力隊 NEWS の刊行(継続)

◎次年度の計画立案の方向性

- ・2025 年 4 月、道南スギカヌー展示会を主催
- ・2025 年 5 月より道南スギカヌーづくりイベントを定期的に主催
- ・2025 年 7 月、空き家を利活用した民泊を開始
- ・2025 年 9 月、道南スギカヌーの完成お披露目進水式を主催

- ・2025 年 10 月、50L の地元材洋酒樽のお披露目
- ・令和 7 年度中、砂原支所窓口カウンターのリニューアルをすべて完了

(5) 総括

令和 6 年度は森林資源の活用と地域活性化に向けた多岐にわたる活動を積極的に展開し、若年層育成、特産品開発、イベント開催、情報発信など、多角的なアプローチで活動をしている。次年度は、課題点の改善および地域おこし協力隊卒業後の収益事業に向けて道南スギカヌー事業と地域材洋酒樽事業については特に力を入れて活動していく予定である。